

基本方針	プロジェクト名	具体的な施策	施策の概要	施策の実施進捗	想定される事業	KPI	実績値 (事業を実施しなかった場合は「×」 計測できない場合は「？」とした)	左記の年度 (和暦)	KPI所管	達成A 未達成B その他C
うきはの資源活用と新たな雇用の創出	プロジェクト1: 藤波ダム周辺地域産業連携空間形成プロジェクト	藤波ダム周辺地域への産業立地促進	地域環境を活かした産業立地の可能性、PFI等民間のノウハウを活用した産業導入の可能性などに関する調査を実施する。	実施していない	・事業立地可能性調査 ・ターゲット市場に係るマーケティング調査 ・土地活用可能性調査	引き合い件数:3件/年	×	-	都市計画準備課 計画・調整係	C
		水ビジネス可能性検討	有望な水脈があると思われる同地域において、地下水を活かしたビジネスの可能性について検討を行う。	実施していない	・水事業立地可能性調査 ・水脈試験調査	引き合い件数:3件/年	×	-	都市計画準備課 計画・調整係	C
		藤波ダム公園活用促進	公園の有効な活用について、キャンプ施設など新たな機能の導入などについて検討を行う。	実施していない	・キャンプ場活用可能性調査 ・水場等施設整備	利用者数:1,000人/年	×	-	住環境建設課 建設管理係	C
	プロジェクト2: うきはブランド形成プロジェクト	観光PR体制の整備と強力な情報発信	エージェント向けの営業を実施し、うきは市に立ち寄る旅行企画商品の造成を図る。新鮮な観光情報をHP、SNS等を活用し情報発信を強化する。観光ガイドブックの充実と目的別の観光マップを制作する。	実施した	・「遊びにおいてよ！うきはに」事業 ・うきはの旬な情報発信事業	国内観光客入込客数:300万人/年 観光協会によるHP・フェイスブック運営の実施:28年度を目途に開始 観光ガイドマップ発行:2種類/年	240万人/年 HP・フェイスブックともに開始済 1種類	平成31年度 平成28年度 平成30年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係 うきはブランド推進課 ブランド戦略係 うきはブランド推進課 ブランド戦略係	B A B
		体験型観光・スタディツアー実施	観光農園等を活用した体験型観光や、食生活、農産加工や地産産業に係る学びのツアーを企画・実施することにより、交流人口の拡大を図る。	実施した	・うきはで体験・学ぼうツアー事業 ・エコミュージアム構想推進事業	体験型観光客の入込客数:10万人/年	11万人	平成31年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	A
		インバウンド(訪日外国人誘致)対策と多様な人材の受け入れ	国が目標とする訪日外国人2000万人に合わせ、うきは市が福岡空港や博多港から1時間で行ける日本の原風景、という地理的特性を活かして、インバウンド対策を推進する。	実施した	・Welcome-Ukiha事業 ・多言語化サービス事業 ・うきはWi-Fiエリア拡大事業	外国人入込客数:1万人/年 観光案内所での外国語による観光案内サービス実施:2箇所 多言語化4ヶ国語観光ガイドブック作成:1種類 多言語化の観光案内板:0箇所 1箇所 Wi-Fi利用が可能な観光施設等施設:2箇所 5箇所	4,400人/年 2箇所 1種類 ×	平成31年度 平成31年度 平成30年度 -	うきはブランド推進課 ブランド戦略係 うきはブランド推進課 ブランド戦略係 うきはブランド推進課 ブランド戦略係 うきはブランド推進課 ブランド戦略係	B A A C B
		福岡市への情報発信強化	現状福岡市からの観光入込数が少ないことに鑑み、「身近なところの、非日常空間」を訴求ポイントにうきはのスポット・産品・サービス等に関する情報発信を行い、福岡市および周辺からの来訪者の増加を目指す。	実施した	・福岡市民向けモデルツアーの造成 ・福岡市内でのプロモーション(物販、イベント等)強化 ・福岡市民向け情報誌への記事掲載	RESASの滞在人口(休日)における福岡市博多区のランキング:現在7位 4位	7位	平成30年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	B
		地域産品の販売促進・高付加価値化・新たな特産品開発	フルーツをはじめとした地産産品の販路開拓と高付加価値化を図るため、都市部へのPR強化とブランドイメージの構築を図る。	実施した	・商標登録出願 ・うきはフルーツ高級感創出事業 ・6次産業化推進事業 ・マーケティングアドバイザー招聘事業 ・高校生等の若者によるマーケティング調査	うきは商品提供先:0社 5社 6次産業化に取り組む農業法人等:5団体増	5社 7団体	平成31年度 令和元年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係 農林振興課 農政係	A A
		本物の温泉プロモーション	筑後川温泉、吉井温泉の泉質及び源泉の使用法にまつわる良さをアピールし、両温泉のブランド力を高める。	実施した	・泉質・効能データ作成調査 ・浴用・飲用最適化検討事業	入込数:7万人 9万人	6万5千人	平成31年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	B
	プロジェクト3: 温泉・健康ツーリズムプロジェクト	温泉・健康モデルツアー開発	健康をキーワードに、森林など周辺地域の資源との連携を図り、都市住民向けの温泉滞在プログラムの開発を行う。	実施した	・市内温泉パッケージツアー造成 ・モニターツアーの実施 ・森林・温泉・健康プロモーション事業	参加者数:3,000人/年	100人/年	平成30年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	B
		温泉活用健康メニューの開発	健康を高めるための様々なアプローチを行う中で、食や、うきはアリーナと連携した運動を中心にメニュー開発を行う。	実施していない	・フルーツ・野菜健康メニューの開発 ・健康指導の実施	参加者数:3,000人/年	×	-	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	C
		スポーツツーリズム強化事業	2020年のオリンピック・パラリンピックを目標に、事前合宿とインバウンド観光、国内スポーツ団体等の呼び込みを図る。	実施した	・ラグビーワールドカップ合宿誘致 ・オリンピック・パラリンピック合宿誘致 ・国内大会、トレーニング、スポーツ合宿等誘致	誘致件数:3件/年	7件(2日間以上の利用)	令和元年度	生涯学習課 スポーツ文化振興係	A
		地域資源の洗い出しと商品企画	既存の地域資源で他地域と差別化できる素材をピックアップし、住民の地域資源認知度の向上を図りつつ、ターゲット及びコンセプト等を明確化した上で商品企画(サービス等)を行う。	実施した	・地域資源活用による新商品企画事業	モノ及びサービス系で計:20案件/年	3案件	平成31年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	B
	プロジェクト4: 地域資源を宝にするのだ！わたしの起業プロジェクト	既存の地域資源を使った商品開発	モデルとなるいくつかの商品開発を講座形式で行い、「商品開発とは何んぞや」という考え方を参加者が実践を通じて理解できるようにする。(仕様検討・表示義務・資材検討・デザイン検討等)	実施していない	・地域資源活用による商品化支援事業(生ワイン等) ・商品開発講座	モノ及びサービス(観光プログラム等含め):10案件/年	H30:4件 地域資源活用事業補助金3件 産業連携支援事業補助金1件 H31(R1):4件 地域資源活用事業補助金4件	平成30年度 令和元年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	B
		商品の販路開拓	モデルとなる商品を使い、市場ニーズにマッチしたパッケージ選定・販売戦略・広報戦略を行い、経験値をあげる。	実施していない	・新商品の販売戦略・広報戦略構築事業 ・SNS等による商品情報発信	モノ及びサービス(観光プログラム等含め):10案件/年	銀座三越コラボ事業:26事業者	平成30年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	A
		雇用・起業・起業・就業関係を重視したサイト開設	女性や経済的弱者向けに、起業に必要な知識、上記で行う講座概要の情報共有、相談窓口の周知等を行う。市内ロールモデル、起業・創業者情報の蓄積を行う。	実施していない	・センター独自サイトの開設 ・女性活躍人材育成事業	ロールモデルデータ、起業・創業者情報:1カ月に1人ピックアップ(初年度6名)	創業・移住支援ポータルサイト「うきはのはなし」にて全22名の事業者を紹介	平成28年度 令和元年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	C
		シェアショップ形式で市所有施設の利活用	観光客向けとしては、直売所以外の立ち寄り先を作り、回遊性を生む。市民向けとしては、小さな起業での空き施設・古民家等の利活用を提示し、チャレンジする意欲を生む。	実施していない	・シェアショップによる起業支援事業	実験的な1DAY CAFÉは1WEEK CAFÉの開催:1回/年	?	-	うきはブランド推進課 商工振興係	C
		創業支援の充実(創業支援事業計画に基づく創業支援事業)	創業支援として、創業支援ワンストップ相談窓口の設置、創業希望者の情報一元化、創業希望者向けセミナー開催、創業支援機関(商工会・金融機関等)との連携強化に力を入れる。	実施した	・起業・創業支援サロンの整備 ・支援コーディネーターの配置 ・起業・創業勉強会、セミナーの開催 ・ビジネスモデルコンテストの開催 ・女性の起業・活躍支援 ・創業資金調達支援事業 ・創業補助金(国事業に該当しない部分の支援)	創業相談:5件/年 30件/年 セミナー等の実施:6回/年	創業相談:5件/年 125件/年 8回/年:創業スタートアップセミナー(8-9月)、創業塾(1-2月)各3日間開催。その他、毎月(7-12月)1回福岡県よろず支援拠点によるセミナー開催。	令和元年度 令和元年度	うきはブランド推進課 商工振興係 うきはブランド推進課 商工振興係	A A
	プロジェクト5: うきはの「しごと」拡大プロジェクト	事業拡大・新分野進出・新事業創出の支援	事業拡大のターゲットとして、うきはの地域資源を活用した商品開発の支援、農商工連携・6次産業化・新連携の推進、販路拡大の支援、アンテナショップ等の推進を図る。	実施した	・新商品開発支援事業 ・デザイナーマッチング事業 ・テストマーケティング事業 ・展示会・商談会等参加費補助事業 ・中小企業貸付金利子補給事業	新商品開発件数:5件/年	4件/年 :地域産業資源活用事業補助金採択者4事業者 よかもんいちご、新川製茶、栗木商店、旬菜弁当	令和元年度	うきはブランド推進課 商工振興係	B
		就業希望者と地元企業とのマッチング機会の創出	地元企業が求める人材に係る情報を、小中学生から就職を控える高校生等に対して積極的に発信し、地元就職率を高める。	実施した	・企業・高校生マッチング事業(社長、技術者等による特別授業、インターンシップ強化等) ・小中学生の企業見学の強化 ・地元企業の紹介冊子、サイト作成	昼間人口:28,586人(2010年) 29,500人	?	-	うきはブランド推進課 商工振興係	C
		収益性の高い農業への転換等の支援	うきは市の特性を活かすために、平坦部での小麦・野菜、山麓部での果樹、中山間地における棚田米等地域に適した産地形成による作物栽培の支援を行う。また、新品種等への積極的な取組みと複合的農業経営への転換の推進、品質の向上、ブランド化等による、高付加価値化・農商工連携・6次産業化等の推進、販売力の強化と販路拡大への対応を図る。さらに、農業生産法人や民間企業と連携した農業の共同経営による農業振興の推進を図る。	実施した	・水田農業振興対策事業 ・農業経営支援対策事業	水田機械関係事業:5件/年	5件/年	令和元年度	農林振興課 農政係	A
		農林業の担い手の育成・支援	担い手支援のため、青年就農希望者の恒常的な相談窓口を設置し、新規就農総合研修事業の展開、農地・農業用施設・山林等の情報一元化、関係機関(農業委員会・JA・森林組合・久留米普及指導センター等)との連携強化を図る。このために、専門相談員の配置(外部人材、有資格者等)を行う。	実施した	・就農支援事業(セミナー開催等) ・農用地利用集積促進事業 ・農業マーケティング塾	新規就農研修事業:3名/年 セミナー等:2回/年	1名/年 2回/年	令和元年度 令和元年度	農林振興課 農政係 農林振興課 農政係	B B
		農業生産法人活動支援事業(うきはレインボーファームプロジェクト)	農業生産法人を設立し、新規就農の促進等、農業後継者を育成し、うきは市における安定的な農業経営の確立を推進する。	実施した	・ファーム運営経費に関わる支援 ・ファーム活動経費に関わる支援	就農相談件数:25件/年 新規就農者目標:7名/年	26件/年 8名/年	令和元年度 令和元年度	農林振興課 農政係 農林振興課 農政係	B B
		未来の夢が描ける林業の育成	林業経営の改善、林産市場の拡大、木造建築物の整備等を通じ、林業の魅力やPRし、後継者の育成に結びつける。	実施した	・人材育成・資源活用事業 ・木材関連産業活性化プロモーション事業 ・林業経営の集約・効率化 ・林産品のマーケティング調査 ・木造建築物・構造物の普及	林業後継者の数:5人 木造公共建築物比率(新規分):80%	0人 71.4%	平成30年度 令和元年度	農林振興課 林政係 企画財政課 契約管理係	B B
プロジェクト7: 地理的環境分析に基づく農業等の戦略的ブランド化プロジェクト	ブランド化のコンセプトメイキング	農業に係る地理的環境や歴史的背景等を把握することにより、うきはの農業のブランド化に対してどのように訴求していくのかについて、戦略や戦術を明確にする。	実施した	・地理的環境評価に係る基礎調査 ・地理的情報(テロワール)を活用した市場訴求戦略調査 ・テロワール回遊ルートの開発	情報発信ツールの制作数:3種類	10種類	令和元年度	都市計画準備課 計画・調整係	A	
	気圏・地圏・水圏の環境調査	農業と関連性が深い自然環境項目について、客観的に評価し、うきはの農業におけるブランド化に向けた動きを加速させる。	実施した	・農業環境に関わる気象・気候条件調査 ・農業環境に関わる地形・地質・土壌条件調査 ・地下水活用現況・流動調査	同上(上記と合わせて)	11種類	令和元年度	都市計画準備課 計画・調整係	A	

基本方針	プロジェクト名	具体的な施策	施策の概要	施策の実進捗	想定される事業	KPI	実績値 (事業を実施しなかった場合は「×」、 計測できない場合は「？」とした)	左記の年度 (和暦)	KPI所管	達成A 未達成B その他C
		うきはの戦略的作物の創出	うきはの気候条件や地形、地質、土壌、水の条件(テロワール)に適した作物を戦略的にピックアップするとともに、客観的データに基づきイメージアップを図る。	実施した	・戦略的果樹作物育成事業 ・戦略的野菜育成事業 ・うきはの農産物における機能性評価調査 ・高付加価値農業推進事業	戦略的作物の創出数:5件	4件	令和元年度	農林振興課 農政係	B
地域コミュニティの再生と都市部からの人の呼び込み	プロジェクト1: ジョブマッチング空家対策プロジェクト	市内求人データベースの構築	うきは市内での求人情報を一括的に把握し、都市部に向かって発信するために、データベースの構築を行う。	実施した	・商工会会員求人データベース登録 ・市内事業所求人データベース登録	市内新規就業者数:20人/年	市内新規就業者数:51人/年	令和元年度	うきはブランド推進課 商工振興係	A
		古民家等物件発掘	賃貸、売買可能な空家を確保するために、その支障となっている事項に対して支援を行い、「資源」としての空家の活用を図る	実施した	・家財預かりサービス(トランクルームとの連携) ・仏壇・位牌預かりサービス(寺院との連携) ・不要物処分代金助成 ・家屋メンテナンス、環境整備、維持サービス ・帰省時宿泊場所紹介サービス	空家データバンク登録数:述べ5件 述べ30件	述べ52件(H25~R1)	平成25年度 ~令和元年度	うきはブランド推進課 地域振興係	A
		起業・創業用町家等の発掘・活用	良好な空家と起業につながる空家を発掘し、モデル事業として、移住者等に社会実験活動を行わせて、起業を支援していく。併せて、市内の地域資源や既存産業(店)を紹介するガイドブックの作成、事業者同士の情報交換や異業種間交流の推進を行い、新たな創業の動きを作っていく。	実施した	・事業所・商店用空家のマッチング事業 ・ガイドブック作成事業 ・空家店舗等活用事業	空家を改装した店舗の数:20店舗	12件(地域振興4:きふね、ふらっと、あん、小塩、商工振興:空家店舗改修事業費補助金採択数 H30:5、R1:3)	平成30年度 令和元年度	うきはブランド推進課 地域振興係	B
		人材・物件マッチング	うきはへのリターン者、リターン者をターゲットに、職と住居が一体的となった斡旋を行う。	実施した	・就職・定住支援センター開設事業 ・市内企業と新卒者との就職支援事業	雇用マッチング件数:100件 就職相談会:1回/年	123件(H30:72+R1:51) 1回/年:福岡県プロフェッショナル人材センターによる事業説明会開催	平成30年度 ~令和元年度 令和元年度	うきはブランド推進課 商工振興係 うきはブランド推進課 商工振興係	A A
		誘致企業で働く(就業)者への支援	誘致企業の就業者確保のため、三大都市圏(東京都、大阪府、愛知県)から就業のため転入した者への助成を行う。	実施していない	・誘致企業就業支援事業	都市圏からの助成対象転入者数:10名	×	-	都市計画準備課 計画・調整係	C
	プロジェクト2: 災害に強い安全安心なまちづくりプロジェクト	減災教育推進	誰もが安心して暮らせる環境を整備するため、子どもから高齢者まで避難等の意識向上を図り、地域の連帯を進める。	実施した	・自治協議会避難訓練減災教育事業 ・地域の安全点検ワークショップ ・文化財防災・減災・復興支援	避難訓練減災教育開催回数:1カ所/年 3カ所/年 自主防災組織の組織率:50% 80%	2カ所(妹川・江南)防災訓練を実施、防災講習会を約50回実施し約2,000名参加 81%	令和元年度 令和元年度	市民協働推進課 コミュニティ支援係 市民協働推進課 消防防災係	A A
		地域防犯推進	「地域で地域は守る」を合言葉に、子どもへのあいさつ活動や高齢者への声かけ活動等により、地域防犯力を向上させる。	実施していない	・防犯カメラ設置事業 ・子ども110番活動促進事業 ・二セ電話防止電話機設置補助事業(迷惑電話チェッカーの設置)	防犯カメラ設置箇所数:累計14箇所 累計22箇所 子ども110番活動参加者数:200人 二セ電話防止電話機設置補助台数:100台	14箇所 ? ×	令和元年度 -	市民協働推進課 消防防災係 市民協働推進課 消防防災係 うきはブランド推進課 商工振興係	B C C
		公園再編計画策定事業	点在する公園を、公園と公園以外の高度利用地と分け、公園機能(防災拠点、子どもが安心できる居場所づくり)を充実させる。子どもが安心して遊び体験できる公園づくりを進めるとともに、子ども期に愛郷心を育てる。市内の公園の魅力アップさせて、子育て等に優しい環境をつくる。	実施していない	・公園再生計画策定事業 ・子ども公園認定事業	再編した公園の数:5箇所 子ども公園利用者数:3,000人/年	× ?	-	住環境建設課 建設管理係 福祉事務所 子育て支援係	C C
	プロジェクト3: 輝け地域の宝にぎわい創出プロジェクト	結婚理解促進活動	人口減少の根幹である子どもの出生率を上げるには、婚姻数を上げることが大事であることから、出会いの場、出会う機会、結婚活動の理解促進を図る。	その他	・結婚について考えよう事業 ・適齢期の子を持つ親への働きかけ事業	市内婚姻数:H24~26平均131件 135件/年	105件/年	令和元年度	市民生活課 住民係	B
		地域資源を活かす活動を推進	地域資源を活かすための人材の育成、および専門家、ファン・マニアの誘致を図り、実際に活かすための工夫を行う。	実施した	・地域資源発掘事業 ・地域資源プロデューサーの育成	地域資源の発掘数:30件	4件:地域産業資源活用事業補助金採択者 4事業者 よかもんいちご、新川製茶、栗木商店、旬菜弁当	令和元年度	うきはブランド推進課 商工振興係	B
プロジェクト4: 2020年日本書紀1300年をターゲットとしたうきはの歴史資源活用型「時空のネットワーク」形成プロジェクト	景行天皇から南北朝までの歴史資源発掘と活用	日本書紀から南北朝時代までの資源を活用し、歴史観光など特色あるうきはを訴求する。	実施した	・日本書紀史実、古墳、山城の調査 ・生葉染め技術の復活・小物類・衣料・装飾品等の開発 ・うきは歴史ツアーの造成	歴史商品開発数:20件	9件(古墳等をモチーフにした缶バッジ等を9種類製作、イベント等で配布・販売、一般販売はしていない、民間でアクセサリを十数点製作してもらい販売)	令和元年度	生涯学習課 文化財保護係	B	
	近代遺産の活用	明治以降の歴史資源を活用し、観光、新規事業創出などを通じて地域の活性化を図る。	実施した	・居蔵の館、鏡田屋敷活用検討事業 ・歴史的町家のビジネスモデル構築事業(サテライトオフィス等の整備) ・山間部の伝建地区住宅の活用 ・円形劇場活用事業	歴史的施設利用者数:40,000人	公開施設入館者数43,578人(H30)・ワークキングやワークショップ等での施設利用者数、鏡田屋敷364名、円形劇場でイベント実施1件 約500人	令和元年度 (公開施設入館者数のみ平成30年度)	生涯学習課 文化財保護係	A	
	現存する歴史的遺産を活かした観光振興事業(過去から未来につなぐ地域づくり)	装飾古墳の価値を見出し(7つの装飾古墳が集積する貴重性、耳納連山のロケーション)、4次元のストーリーを創出し、保護と集客が同時進行できるタイアップ型運営を行う。	実施した	・歴史的農業環境特性検討調査 ・農的空間整備事業 ・歴史観光検討調査	古墳見学者参加数:2,000人	毎月第3土曜日公開や筑後川流域同時古墳公開を実施、30年度1032人 圓形古墳群の整備を実施中	令和元年度	生涯学習課 文化財保護係	B	
	歴史的フットパス整備事業	うきは市内に点在する歴史的資源をフットパスで連携し、オルレなどと並ぶ、新たな観光回遊ルートとして整備する。	実施していない	・耳納山麓フットパスの整備 ・山城フットパスの整備 ・温泉・田園フットパスの整備	入込数:2,000人	歴史の小道(西屋形~屋部地蔵尊まで)は整備しているが入込数まで把握していない、山城のパンフレット等はあるが、活用までできていない。	令和元年度	生涯学習課 文化財保護係	C	
結婚から子育てを経て生涯夢を持ち生活することができるうきは市	プロジェクト1: 子は地域の宝プロジェクト	子どもに対する“地元から愛される教育”支援	子どもの地域への愛着と地元産業の理解促進を図り、地元に住み続けたい意識を育てる。	実施していない	・誕生会は特産スイーツで祝う支援事業	特産スイーツを食べたことのある児童数:3,000人/年	×	-	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	C
		子育て関連医療の充実	休日の診療や産科の誘致など、安心して子供が産み、育てられる環境を整備する。	実施した	・産科医療機関の誘致	子育て世代の精神的負担軽減市民満足度:80%	?	-	福祉事務所 子育て支援係	C
	プロジェクト2: うきはっ子夢・学力向上プロジェクト	ウッドスタート事業	うきは市の地域資源である木で作った製品と生まれた直後から接することにより、子どもに対してうきはへの帰属意識を醸成し、あわせて地域産業の活性化にも資する。	実施した	・木の玩具、乳幼児向け木製用品開発 ・木育プログラムの構築(ウッドスタート) ・他自治体、企業等との木育連携	対象乳幼児:250人/年	対象乳幼児:179人/年	令和元年度	保健課 食育健康対策係	B
		ワークライフバランスの推進	家庭の中で夫婦が揃って子育てに参画できるための環境整備として、ワークライフバランスの推進を市内の事業所に対して図っていく。	実施した	・ワークライフバランス講演会 ・ワークライフバランス企業出前講座 ・ワークライフバランス実現のための企業相談	講演会等の参加者:500人/年	・ワークライフバランス研修(市職員対象)参加者114名 ・市内事業所へ啓発資料送付 ・市内事業所へ訪問し、ワークライフバランスにかかる事業説明(コロナウイルス感染拡大の影響で11社のみ訪問)	令和元年度	男女共同参画推進室 男女共同参画推進係	B
	プロジェクト2: 緊急課題学力・才能“寺子屋”事業の充実	緊急課題学力・才能“寺子屋”事業の充実	寺子屋の開催場所の拡大、対象分野の学習領域以外への拡大、対象年齢の拡大等により、うきはの子どもの学力向上に資するものとする。その際、市民から指導者を育て、協働の精神で地域の子どもの見守りしていく仕組みを形成する。	実施した	・寺子屋まちいっばい事業 ・寺子屋英語塾 ・寺子屋もの・こと塾	寺子屋参加者:150人 300人	103名受講	令和元年度	生涯学習課 社会教育係	B
		豊かな心を育てる教育	うきはの環境・空間を活かして、子どもの感性を磨くための取り組みを行い、うきはに対する帰属意識の醸成を図る。	実施した	・地域を愛する心の育成事業 ・芸術とのふれあい事業 ・リトミック教育事業 ・国際連携・文化資本創出事業	年少人口(0~14歳)増:5%	-0.7%	平成27年度	企画財政課 企画調整係	B
英語力アップ講師の配置		学校教育の一環として、小学校低学年より英語に慣れさせ、国際感覚を養う。	実施した	・英語講師配置事業	小学校:10校(全校)	日本人ALT活動日数45日(10校全校)	令和元年度	学校教育課 学事係	A	
ICT教育の充実	児童・生徒の学力を向上させるために、ICT機器を活用し、児童・生徒の発達状態に応じた、きめ細やかな教育を実現する。	実施した	・ICT支援員の配置 ・ICT機器導入	児童・生徒のICT端末活用:100%	100% 令和2年度に1人1台機器購入	令和元年度	学校教育課 学事係	A		

基本方針	プロジェクト名	具体的な施策	施策の概要	施策の実進捗	想定される事業	KPI	実績値 (事業を実施しなかった場合は「×」、 計測できない場合は「？」とした)	左記の年度 (和暦)	KPI所管	達成A 未達成B その他C
基本方針	プロジェクト3: 市民総出の健康増進プロジェクト	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置	心のケア対策や不登校対策を充実させ、親が子どもを安心して学校に通わせられる環境をつくる。	実施した	・適応指導教室やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等による多面的指導	不登校児童生徒数:半減	30%減	令和元年度	学校教育課 学事係	B
		子どもの居場所づくり「クラブ活動指導者育成」	指導者の多くは教諭で、多忙の中苦勞しているが、クラブ活動の事故も目立ってきていることから、クラブ活動に対するサポート体制を整備する。	その他	・中学校部活動等外部指導者委嘱事業	中学生を持つ世帯の部活動指導者手帳の市民満足度:70%	?	-	学校教育課 学事係	C
		教育環境整備	地球温暖化により、教室内の室温が年々暑くなっており熱中症事故も発生していることから、夏でも快適に勉強できる環境をつづいていく。	実施した	・空調機設置設計に係る委託事業 ・空調施設の導入手法の検討	指導者委嘱クラブ数:4クラブ 10クラブ	委嘱数2クラブ (外部指導者数:両中学校11クラブ)	令和元年度	学校教育課 学事係	B
		田圃環境での学力向上推進	学力低下に歯止めをかけて、移住者や市民が喜ぶ教育環境をつくる。	その他	・伸び盛り中学生教育充実事業 ・子どもの社会力育成事業 ・衣食住連携事業	体調不良児童・生徒の発症数:-20%	全小中学校空調機器設置済	令和元年度	学校教育課 学事係	C
		予防医療活動の推進	うきは市内で整備が進むセラピーロードやチップロードについて、医学的な裏付けのもと利用促進を図る。	実施した	・チップロードの活用 ・森林セラピーの普及	希望高校への進学率:95% 100%	?	-	学校教育課 学事係	C
	プロジェクト4: 健康うきはプレミアムエイジプロジェクト	うきはは健康事業の推進	健康に結びつく様々な事業を推進することにより、市民のQOL・オプ・ライフの向上を図る。	実施した	・テータヘルス推進事業(健康受診率向上) ・食を通じた健康づくり事業 ・運動習慣育成	子どもをもつ移住者の数:50人(50家族)	42家族	平成元年度	企画財政課 企画調整係	C
		生きがい対策プログラム	生涯現役で活動ができる地域社会を形成し、すべての世代が生き生きと生活できる環境を形成する。	実施した	・コミュニティへの参加推進 ・相互扶助システムの強化 ・生活不活発病の防止	自治協議会活動への参加率:60%	?	-	市民協働推進課 コミュニティ支援係	C
		フィジカルヘルスの向上	身体的な健康状態を維持することにより、高齢者の社会参画を進める。	実施した	・高齢者が気軽に取り組める運動の推進	一般高齢者の外出頻度(週4~5日以上):70%	?	-	保健課 介護・高齢者支援係	C
		メンタルヘルスの向上	精神的な健康状態を維持することにより、高齢者の自立と社会参画を進める。	実施した	・認知症予防事業 ・域内見守り事業	一般高齢者の外出頻度(週4~5日以上):70%	?	-	保健課 介護・高齢者支援係	C
	プロジェクト5: 重点道の駅整備プロジェクト	シルバー人材センターの活性化・充実化	高齢者の社会参画を進めるため、ボランティア作業でポイントもらえる制度を導入し、登録者の増加と活性化を図る。人員募集をメールで知らせる。また、情報伝達の活用能力をアップさせるとともに、Wi-Fiが利用できる場所を増やす。	実施していない	・シルバー人材センターポイント制事業 ・メールアドレス登録事業 ・高齢者向けスマホ活用事業	シルバー人材センターの登録者数:500人	シルバー人材センターの登録者数:301人	令和元年度	保健課 介護・高齢者支援係	B
		人材の登録活用	特技・技を持った人を自治協議会に登録し、活用する場をつくり生きがいを持たせる。学校・保育所等での活用を促進する。	実施した	・人材登録活用事業 ・市民大学拡充事業 ・チップロード活用プログラム ・森林セラピー普及プログラム	高齢者メール登録者:1,000人	?	-	保健課 介護・高齢者支援係	C
		ヒト・モノ・流動活性化のためのEVネットワークの構築	道の駅に商用EV(トラック、バン)及びEV充電設備を配備するEVステーションを設置し、停滞が進む中山間地域におけるヒト・モノの流動を活性化するためのEVネットワークを構築する。	実施した	・高齢者農業支援のためのEV充電集荷・宅配ネットワーク ・女性の6次産業推進のためのEVネットワーク ・高齢者生活支援のためのEVデマンドタクシー	自治協議会登録者:100人	?	-	市民協働推進課 コミュニティ支援係	C
	プロジェクト5: 重点道の駅整備プロジェクト	女性や高齢者の「いきいき仕事・暮らし拠点」の整備	道の駅や周辺の「既存施設」を活用し、女性グループによる6次産業を推進し復興を支える拠点を整備するとともに、高齢者の生きがいや暮らしをサポートする拠点を整備する。	実施した	・女性が働く加工施設や子育て支援施設の整備 ・高齢者のための農業支援センターやコールセンター等の整備 ・うきは週末マルシェの開催	チップロード・森林セラピー参加者数:15,000人	チップロード活用作業 実証館高校30名	令和元年度	うきはブランド推進課 地域振興係	B
		高齢者・女性の生産品販売促進のための「うきは魅力アッププロジェクト」	高齢者や女性による生産品の道の駅における販売を促進するため、地域文化や観光資源の発信の強化、ブランド化の推進等により、市外から道の駅への集客を増加させる。	実施した	・野外円形劇場の復活など地域文化の発信 ・うきはブランド化や観光プロモーションの強化	農産物等出荷量:20%増	29%増	平成31年	うきはブランド推進課 地域振興係	A
		女性や高齢者の「いきいき仕事・暮らし拠点」の整備	道の駅や周辺の「既存施設」を活用し、女性グループによる6次産業を推進し復興を支える拠点を整備するとともに、高齢者の生きがいや暮らしをサポートする拠点を整備する。	実施した	・女性が働く加工施設や子育て支援施設の整備 ・高齢者のための農業支援センターやコールセンター等の整備 ・うきは週末マルシェの開催	一般高齢者の外出頻度(週4~5日以上):70%	?	-	保健課 介護・高齢者支援係	C
時代にあったうきはの地域づくりと広域的な地域間連携	プロジェクト1: 個性ある地域・づくりプロジェクト	UJiデュアルライフの促進	移住者や二地域居住生活者の活動を支援するとともに、その生活の魅力を全国に発信する。子どもにその活動を伝え、地元でできるライフスタイルのおもしろさの提案や地域への愛着心を育てる。	実施した	・UJiデュアルライフ大使推進事業 ・生活提案型ビデオコンテンツ制作 ・うきはのCCCRC推進事業	UJiデュアルライフに関する大使の数:3人10人	現在7名	令和元年度	うきはブランド推進課 地域振興係	B
		つばめの学校	うきは市内の小中学校を卒業し、市外に転出している者について、地元に残っている人のネットワークを通じて呼びかけを行うことにより、うきはへの来訪を促し、うきは市と他地域との新たな関係を構築する。	実施した	・市内小中学校同窓生連絡先把握調査 ・市内小中学校同窓生帰省促進事業(同窓会開催)	一般高齢者の外出頻度(週4~5日以上):70%	?	-	市民協働推進課 コミュニティ支援係	C
		地域おこしリーダーの育成支援	地域や文化、自然等を理解し、まちおこしに活躍する人材を育てていく。	実施していない	・地域リーダー活用事業	週末マルシェ等の開催:12回/年	×	-	市民協働推進課 コミュニティ支援係	C
		文化財・遺産地区を守り活性化	移住・交流人口を大幅に伸ばすことにより、地域の貴重な文化財的価値がある住居等の保全を行う。特に姫治地区においては、災害復興の一環として新たな地域の担い手の導入を積極的に図る。	実施した	・文化財・伝統建築物の居住・活用事業	来駅者数:60万人/年 80万人/年	125万人	平成31年	うきはブランド推進課 地域振興係	A
		田園型住環境向上促進	公的サービスの効率的な集約や新規サービスの導入を通じて、農村・山村空間が卓越するうきはらしい住環境を整備する。	実施していない	・田園型コンパクトシティ形成事業 ・姫治地区内拠点形成事業(小さな拠点) ・住民自治によるRMOの整備	市民の暮らしよさ満足度:70%	75.2%	令和元年度	企画財政課 企画調整係	A
	プロジェクト2: 福岡トライアングル都市圏形成プロジェクト	久大本線の魅力向上	久大本線の沿線地域の魅力や、鉄道自体の利便性・魅力を高めることにより、利用の促進を図る。	実施した	・新駅整備促進事業 ・利用促進キャンペーン ・観光列車の誘致	新駅利用者数:800人/日	×	令和元年度	企画財政課 企画調整係	C
		路線バスの魅力向上	国道210号や県道浮羽草野久留米線を走行する路線バスの利用促進を図る。	実施していない	・特別割引回数券の導入 ・利用促進キャンペーン	久大本線利用者数:10%増	9%減	平成30年度	企画財政課 企画調整係	B
		高速バスとのアクセス強化	高速道路を利用すれば、福岡市へも勤務、気軽に出かけることができることをアピールしてうきは市への定住を促す。	実施した	・吉井・朝倉IC間の連絡バス運行実験 ・浮羽・杷木IC間の路線バスを補充する連絡バス運行実験 ・駐車場設置事業	バス利用者数:10%増	?	-	企画財政課 企画調整係	C
		高速バスとのアクセス強化	高速道路を利用すれば、福岡市へも勤務、気軽に出かけることができることをアピールしてうきは市への定住を促す。	実施した	・吉井・朝倉IC間の連絡バス運行実験 ・浮羽・杷木IC間の路線バスを補充する連絡バス運行実験 ・駐車場設置事業	連絡バス利用者数:20人/日	0.25人/日	令和元年度	企画財政課 企画調整係	B
	プロジェクト3: 耳納北麓観光ルート開発	耳納北麓観光ルート開発	耳納山地のスカイラインから麓の地域において、久留米市、うきは市に共通する資源を活かして観光ルートのアピールに力を入れる。	実施した	・耳納北麓食の回廊整備 ・耳納北麓歴史の回廊整備 ・インバウンド促進に向けたプロモーション ・耳納北麓サイクリングフェス(ツールド耳納)開催	都市圏運動用駐車場利用者:30人	×	-	企画財政課 企画調整係	C
		久留米・うきは産業ゾーン整備	うきは市と久留米市の境界地域において、新駅と周辺の産業団地の一体的整備を行う。	実施した	・鷹取地区における産業団地の整備に係る調査 ・新駅周辺地域整備事業	入込客数:10万人	耳納風景街道サイクルスタンプラリーの実施によるスタンプラリー応募者数57名	令和元年度	うきはブランド推進課 地域振興係	C
		フルーティールンドの機能強化	従前から推進してきた同構想の深化を目指すために、共同イベント・パンフレットの作成等、両地域が連携して取り組むべき多様な事業の展開を図る。	実施していない	・新フルーティールンド整備 ・トンネル入り口周辺環境整備 ・共同物販事業 ・フルーティールンドの物産プロモーション	引き合い件数:10件/年	?	-	都市計画準備課 計画・調整係	C
	プロジェクト5: 筑後川上中流域ネットワークプロジェクト	回遊観光ルートの開発	旧星野村・旧浮羽町間がトンネル開通により大幅に時間短縮されることを受け、新たな観光回遊コースとして訴求を高める。	実施していない	・新規モデルコースの造成(棚田巡り回遊コース、南北朝時代体感コース、山里の食ツーリズム等)	企業誘致件数:3件	1件	令和元年度	都市計画準備課 計画・調整係	B
		歴史資源活用	筑後川中流域に存在する歴史的資源を活かして、歴史観光・学習の場として機能させるとともに、世界的にも重要な遺産として認知を高める。	実施した	・大石堰、山田堰、袋野隧道、大石長野水道等の活用 ・世界農業遺産登録活動	物販販売額:200万円	×	-	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	C
		流域環境創造	日田市、朝倉市などと連携し、筑後川の生態系に留意した環境創造を行い、アユ等の復活を図る。	実施していない	・流域生態系保全活動(鮎の復活、川鶴対策) ・河川空間の立体的活用促進	入込数:2,000人	×	-	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	C
筑後川空間スカイスポーツ振興		大石堰、山田堰等の上空回遊ルートを整備するなど、筑後川に沿った地域を九州におけるスカイスポーツの拠点とする。	実施していない	・モーターグライダー等空中回廊の整備 ・離着場の環境整備 ・空間活用のルール整備	入込数:2,000人	?	-	生涯学習課 スポーツ文化振興係	C	
筑後川流域温泉郷連携		筑後川温泉、吉井温泉を、筑後川流域温泉郷として他の温泉と連携し、広域的な観点から活性化をはかる。	実施した	・筑後川流域温泉郷事業	入込数:7,000人	大石堰見学案内者5,590人 袋野隧道3年に1回公開(H30実施 約300人参加) 袋野隧道ならびに隧道たんけんPR動画を作成しSNS投稿や小中学校へ配布。	平成30年	生涯学習課 文化財保護係	B	
プロジェクト6: 超広域市町村連携の構築～生活圏を越えた地域間連携の構築～	北海道枝幸町とのコラボ・ブランディング	友好都市である枝幸町との連携を高め、人流、物流、リアルプロモーション等において活性化を図る。	実施した	・対アジアへの海産物・果樹連携プロモーション ・東京における南北共同物販イベント ・ふるさと納税謝礼品の相互乗り入れ ・市民グループの相互交流事業	内水面漁獲高:20%増	×	-	水資源対策室 水資源対策係	C	
	北海道枝幸町とのコラボ・ブランディング	友好都市である枝幸町との連携を高め、人流、物流、リアルプロモーション等において活性化を図る。	実施した	・対アジアへの海産物・果樹連携プロモーション ・東京における南北共同物販イベント ・ふるさと納税謝礼品の相互乗り入れ ・市民グループの相互交流事業	入込数:2,000人	?	-	生涯学習課 スポーツ文化振興係	C	
プロジェクト6: 超広域市町村連携の構築～生活圏を越えた地域間連携の構築～	北海道枝幸町とのコラボ・ブランディング	友好都市である枝幸町との連携を高め、人流、物流、リアルプロモーション等において活性化を図る。	実施した	・対アジアへの海産物・果樹連携プロモーション ・東京における南北共同物販イベント ・ふるさと納税謝礼品の相互乗り入れ ・市民グループの相互交流事業	筑後川温泉・吉井温泉の利用者数:7万人9万人	6万2千人	令和元年度	うきはブランド推進課 ブランド戦略係	B	
	北海道枝幸町とのコラボ・ブランディング	友好都市である枝幸町との連携を高め、人流、物流、リアルプロモーション等において活性化を図る。	実施した	・対アジアへの海産物・果樹連携プロモーション ・東京における南北共同物販イベント ・ふるさと納税謝礼品の相互乗り入れ ・市民グループの相互交流事業	東京等における南北共同物販等:1回/年	0回	令和元年度	企画財政課 企画調整係	B	

基本方針	プロジェクト名	具体的な施策	施策の概要	施策の実施進捗	想定される事業	KPI	実績値 (事業を実施しなかった場合は「×」、 計測できない場合は「？」とした)	左記の年度 (和暦)	KPI所管	達成A 未達成B その他C
		群馬県下仁田町とのコラボ・ブランディング	人事交流を行っている下仁田町との連携を高め、特産品の相互販売、イベントの共同実施、エリアルプロモーション等において活性化を図る。	実施した	・東京における農村・山村連携プロモーション ・東京における共同物販イベント ・ふるさと納税謝礼品の相互乗り入れ ・職員の相互交流事業	東京等における共同物販等:1回/年	0回	令和元年度	企画財政課 企画調整係	B
		長崎県壱岐市とのコラボ・ブランディング	小学生の交流を行っている壱岐市との連携を高め、児童を中心とした人流や物産交流等において一層の活性化を図る。	実施した	・福岡市における海山連携プロモーション ・福岡市における共同物販イベント ・ふるさと納税謝礼品の相互乗り入れ ・小学校児童の相互交流事業	福岡市における共同物販等:1回/年	0回	令和元年度	企画財政課 企画調整係	B

A/(A+B)=38%  
B/(A+B)=62%  
C/(A+B+C)=36%

A26  
B43  
C39  
108